

御嶽山 挽歌

◎日程 2016年9月15日 ◎行先 御嶽山 ◎メンバー Yaza
◎報告 Yaza

御嶽山噴火から2年ほど経つ。捜索が打ち切られたまま未だに行方不明者が5名だという。適切な言葉を発することができない。去年は五の池まで規制が解除された直後の7月4日に濁河温泉登山口から入山し、五の池小屋を経て継子岳まで行って来た。時折ガスで霞む御嶽山は火山灰に覆われていた。

継子岳から剣ヶ峰に対峙した時、御嶽山を憎む気持ちにはなれなかった。遺族ではないからだろうか。自問自答を繰り返していた。とても悲しい気持ちになった。

そして最近、登山規制の範囲が半径1kmとなり二の池まで行けることになった。二の池といえは小学生の女の子が独りで亡くなっていた所だ。六合目から入山し八合目の女人堂を経て、三の池に至りそこから賽の河原を通過して二の池に行く計画を立てた。前夜に家を出て国道19号線沿いの道の駅「木曾福島」で車中泊をした。中古で手に入れたXトレイルの後部席は座席を倒せば真っ平らになる。おまけに長い。足を伸ばして眠れる。独りで焼酎を飲みシュラフに包まって眠った。翌朝は4時30分に起き、朝食を簡単に済ませ車をスタートさせた。国道19号線を北に走り元橋という信号で左折した。御嶽山はここから始まる。道の駅「三岳」を過ぎ黒沢の信号を右折した。左折すると王滝口である。どっちに進んでも御嶽教の石塔がたくさん出てくる。信仰の山を強く感じる。

黒沢口の六合目に駐車し、支度を整え6時45分に歩き始めた。樹林の中を1時間30分八合目の女人堂に着いた。小屋の前には献花台が置かれていた。辺りのナナカマドは赤かった。山では秋が始まっていた。ここから三の池に行く予定だったが、そのルートは崩落や落石の恐れがあるため通行止めの標識があった。三の池は諦めて九合目に向かった。急登だった。九合目には覚明上人が立っていた。登山道には2年経った今でも火山灰が積もっていた。覚明上人、あなたがここに居ながら救うことはできなかったのか。

九合目からの急登をさらに上に進んだ。そして剣ヶ峰への分岐、立入禁止である。後ろを振り返ると富士山が見えた。あの少女はどの辺りで倒れたのかと思いつつ二の池に足を運んだ。一帯に火山灰が降り積もり、これま



で何度も見てきたエメラルドグリーンの二の池はどこにもなかった。ことばには言い表せないほどの衝撃だった。こんなになっていたのかとだけ思った。

二の池の畔をって賽の河原の手前まで歩いた。遠くに北アルプスの槍穂高が見えた。少し寒くなってきて、そこから引き返した。下山の途中で、ヘリコプターが同じようなコースを何度も行き来しているのを見た。何かの訓練かなと思ったが、途中で出会った山小屋関係者に聞くと月に何回かはヘリコプターによる捜索をしているとのこと。行方不明者の発見を祈らずにはいられなかった。

(変わり果てた二の池)



《記録》 2016年9月15日 6:45 六合目→8:15 八合目→二の池→11:30 八合目→12:20 六合目